

度は、学級を中心に生徒一人一人が主体的に取り組めるように、学校祭についての学級の目標と生徒一人一人の目標を設定させた。また、学級展の企画・運営について討議し、「発表の場としての学級展」として位置づけた。

「個性の伸長」に関するアンケート調査から、

「学校行事等に参加するとき、いつも自分の目標を持って実行する」1%、「目標は決めない、決めても意識しない」は45%いた。

また、「学校行事の参加態度について反省をしない」及び「ほとんどしない生徒」は52%であり、学校行事に対する意識のなさがうかがえた。

したがって、本年度は、学級活動で、学校祭についての学級目標と個人の目標を設定させることにした。

そこで

- 学級目標の設定にあたっては、学級全員の意見を反映、集約する。
- 学級目標を受けて、個人ごとに短期間で達成できる具体的な目標を立てさせる。

「生徒会行事や学年・学級行事等の企画・立案をしたことがある」生徒は23%であった。生徒一人一人を行事の企画・立案に参加させ、話し合いの場と発表の場を設定すれば、より積極的に取り組み、「よさ」も見いだすことができるのではないかと考えた。

そこで

- 行事や集会、学級活動、奉仕活動等の機会を積極的に活用し、事例の収集に努める。
- ・できるだけ企画の段階から参加させる。
- ・話し合いの過程を大切にする。
- ・感想文を書かせたり体験発表の場を設定したりする。

(2) 実践内容

① 学級活動の内容

学級活動の時間に、学校祭に向けて「学級展の内容」「学級の目標と私の目標」を決定した。個人の目標設定にあたっては、具体的な目標とする

ために「どんな場面で」「どんなことを」「どんな形で」実現したいかを考えさせた。

教師は「どのような学級展にしたいのか」「個人として努力すべき点は何か」をはっきりさせてから目標を設定するように指導・援助し、生徒一人一人の目標を机間指導により確認、激励した。

特に、消極的な生徒や目立たない生徒については、目標や計画設定の必要性、長所の伸長等について個別指導した。

学級の目標と個人の目標は、「学校祭に向けての私の取り組み」として、教室に貼付した。

個人の目標は、短学活で係の仕事の進捗状況とともに一人一人に発表させ、教師は目標達成まで賞賛と励ましの言葉をかけ続けた。

学級展の企画と係活動は「一人一役で積極的に学級展を盛り上げよう」との方針のもとに、委員長を中心に相談した。

教師は、学級展の企画・運営が、学級の討議をもとに積極的に進められるように、「私の目標」の達成に重点を置いて指導した。

学校祭終了後に「目標の反省をし、次に生かす」ことをねらいとして反省会をもった。

② 2年A組 消極的なB子の場合

学級では、これまで目標を決めてはいたが時間をかけて討議することは少なく、目標も具体性に欠けていたため、「積極的に参加する」「～ではがんばる」といった目標が多かった。

本年は、話し合いをとおして、以下のように学級の目標を決定した。

- ・合唱コンクールでの優勝を目指して一人一人が声をだし、精いっぱい力をふりしぼる
- ・学級対抗種目では一致団結してがんばる
- ・学級展では一人一人の役割を果たし、見学に来られた人が満足するような展示にする

この学級目標からB子は「私の目標」を、

- ・あまり歌は好きでないが、声をだして精いっぱい歌う